

○議長（川崎和夫君） 2番 杉田雅史君。

○2番（杉田雅史君） 2番杉田でございます。私からは、さきに通告いたしましたとおり、ふなはしこども園の入所状況と待機児童の見込みについてお伺いしたいと思います。

この問題につきましては、今ほどの竹島議員の質問と重なる部分もあり、また村長からも丁寧なご説明があったところではございますが、重ねてよろしくお願い申し上げます。

まず、当村の人口ビジョンにつきましては、先ほどの話にもあったとおり、今回の村長による提案理由説明の中での所信という形でお示しされましたとおり、平成32年度の人口目標値を約1年半前倒しする形で達成されたとのことをお話をお聞きいたしましたところではございます。

ただ、さらには今後、一昨年からの舟橋地区の住宅団地の造成により30世帯の増加及び古海老江地区の10世帯の増加、また来年度には村営の子育て支援賃貸住宅が完成することにより20世帯の増加、加えて竹内地区の住宅団地の造成計画により56世帯の増加が見込まれているなど、ここ数年で当村における住宅建築、100世帯以上の増加が見込まれているところではございます。これだけの世帯が増加することにより人口も300人以上増加することとなり、当然未就学児童の数も100人近く増加することとなるのではないのでしょうか。

現在、子育て共助のまちづくりを重点事業として行っている当村としまして、ふなはしこども園の定数が現状のままでは入所できない者、つまりは待機児童の発生が危惧されると思いますので、次の数値等を説明していただくとともに、待機児童等が発生しないような対策を講じていく必要があると考えますので、当局のご説明を求めたいと思います。

まず、1点目としまして、先ほど答弁の中にもありましたけれども、現時点における認定こども園の年齢別入所状況と、こども園の職員数から導かれる入所可能数は何名なのでしょう。

次に、2点目としまして、本年10月における当村での出生者数は8名と先だってお聞きしましたけれども、総合戦略に掲げている子育て共助のまちづくり施策を推進することにより年間30人の出生数及び5年間で40世帯の子育て世帯の転入を図るという目標値よりも早く動いている面があるのではないかと思います。

そこで、今後の当村における想定出生者数等は計算されているのでしょうか。当村は

3,000人強の人口事情でございますので、ある程度の綿密な人口計画も立てられると考えられますので、ご説明をよろしくお願いいたします。

次に、3点目としまして、ふなはしこども園は、現状及び今後の人口増加により、先ほども申しましたように、こども園に入園できないという、いわゆる待機児童の発生が想定されているのではないのでしょうか。

現時点でも、実はこども園に入りたいのだけども申し込みをしていないという、いわゆる隠れ待機児童という方もいるとも聞きますが、待機児童の問題というのは、結果として発生してしまったという問題ではなく、現時点で発生が想定されるのであれば、保育園のキャパの問題、また職員の数の問題、あるいはその両方なのかを的確に把握していただき、今後十分な対応をすることが可能な話であると思いますので、現時点での対応方針についてご回答をいただきたいと思います。

最後に、4点目としまして、そのこども園を卒業した後の小学校及び中学校、当村は1校ずつあるわけですがけれども、学年別生徒・児童数の推移見込み等によりまして、小学校、中学校等で今後発生するであろう問題点と対応策について、当局の考え方をお聞きしたいと思います。

当村におきましても、児童数の多い少ない等により、学年2クラスまでは今まであったわけですがけれども、就学児童数に応じてクラス数等は柔軟に対応できるということでもよろしいでしょうか、伺いたいと思います。

以上、私からの質問とさせていただきますが、今後においても当村において子育て共助のまちづくりの実現と、安心・安全な村となるよう、今後とも村当局の真摯な対応をお願いして、私からの質問とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（川崎和夫君） 生活環境課長 吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君） 2番杉田議員の、認定こども園の入所状況と待機児童見込みについてのご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、本村の人口は、平成28年4月1日現在では3,021人、平成29年同月は3,025人と、近年は人口は横ばいで推移しておりましたが、一昨年からは民間事業者による宅地開発によりまして、ことし4月1日で3,064人、11月現在では3,119人となり、本村人口ビジョンに掲げる平成32年度の人口目標を約1年半前倒しする形で達成いたしました。

また、現在分譲中であります舟橋地区、古海老江地区の計40区画のうち、未入居の

23区画に加え、来年度に分譲が始まります竹内地内56区画並びに本村が進めております子育て優良賃貸住宅20戸が完了した場合には、本村の人口が290人余り増となり、3,400人台を超えることが予想されます。

また、ここ数年来の本村における開発地では、未就学児童のいる世帯の入居世帯割合が全体の約65%を占めていること、うち未就学児童がこども園に入園する割合が72%で、未就学児童を持つ家族における平均児童数は1.66人となっております。

これらの諸条件に基づき児童数を推計しますと、現在の開発計画が完了時には約75人の入園が見込まれます。

ご質問のありました、現在の認定こども園の年齢別入園状況と職員数から導かれる入所可能園児数につきましては、現在のこども園の定数であります145人までは対応が可能です。

ちなみに、職員の配置基準につきましては、0歳児は3人に1人、1・2歳児は6人に1人、3歳児は20人に1人、4・5歳児は30人に1人となっております。

次に、今後の出生者数についてありますが、ここ数年は、平成28年度は21名、29年度は27名、本年度は10月8名と非常に多かったんですけども、本年度の見込み数は24名となっております。

また、これまでの開発地における出生者数を調べますと、平成13年・14年に開発されました国重地区のガーデンプレイス、ガーデン・シティ並びに古海老江地区の舟橋ニュータウン、合わせて115区画中、これまでの出生者数は70人であり、年平均は4人です。また、平成18年度に開発されました東芦原地区のきらめきの郷は、60区画中の出生者数は35人で、年平均では3.1人。25年度に開発されました竹内地のクローバータウン舟橋駅南でも、13区画中の出生者数は5人で、年平均は1人です。現在の分譲地や開発予定地におきましても、入居年度や家族構成が異なることから、出生者数が同一年度に集中することは考えにくいと考えております。

また、本村の合計特殊出生率につきましても1.48であり、非常に出生者数が低いというのが現状であります。

次に、認定こども園の現状並びに今後の人口増加による待機児童についてであります。

12月1日現在の認定こども園は、定数145人に対し128人が入園されており、施設的には余裕がある状態ですが、来年度に全ての開発地に入居があり、予測どおり75人の未就学児童が入園を希望された場合は、現在の年長児23人を考慮し試算

すると、35人の待機児童が生まれる可能性があります。

また、来年度の見込み出生数が30人であり、うち0歳児がこども園に入園する過去の実績からの割合62%で試算しますと、18人が入園する可能性があります。

平成31年度に全てが入居されることを想定することはできないと思いますが、来年度以降には認定こども園の定数145人を超える可能性がありますので、待機児童対策といたしましては、現在のユースセンター（旧保育園）の一部を使用することで検討を進めているところでございます。

一方、年度の途中で入園児童数が急増した場合の保育士の確保対応は、十分配慮する必要がありますので、開発業者から、売買契約後速やかに入居者家族構成等の情報を得られるように努めてまいりたいというふうに考えております。

次に、認定こども園の卒園後の小学校並びに中学校の受け入れ態勢につきましても、現有の施設で十分に対応できるというふうに考えております。

最後に、今後の開発につきましては、本村の現有施設の対応能力や人口構成を十分に考慮するとともに、人口ビジョンとの整合性を図りながら慎重に進めてまいりたいことを申し上げまして、答弁いたします。

○議長（川崎和夫君） 杉田雅史君。

○2番（杉田雅史君） 今ほどは、ご答弁ありがとうございました。

当村における人口問題及びそれに付随する保育園及び先ほど話が合った水道施設等も含めた既存施設の問題につきましては、今後も、今ある計画以外の新規の民間の宅地開発等の発生により、今想定しているスピードよりも早く動くことも想定されることとなりますので、村当局の堅実な先読みと迅速なご対応をお願いし、また課長、るる建設について説明されましたが、きょうの質問に対する各種計数につきましては、次回の委員会質疑等の際に参考資料として提出していただけるようお願いして、私からの質問とさせていただきます。